

【6年生】

	児童の現状の分析	授業改善の方針
国語	〈読むこと〉 ○文学的な文章において、物語のあらましを捉えたり人物の行動の意味や心情について叙述を基に捉えたりすることは概ねできている。しかし情景描写などの表現の工夫に着目したり、イメージを膨らませて読んだりすることは難しく、物語の主題を捉えることは十分にできているとはいえない。 ○説明的な文章においては、全体の構造を捉えることはできるようになってきたが、指示語の読み取り、語彙等に課題があることから、叙述を基に筆者の考えを捉えたり要旨を把握したりすることが十分にできていない。 ○語彙力や生活経験に差があり、言葉の意味を正しく理解したり、文章を読んで具体的な様子をイメージしたりすることが難しい様子も見られる。 ○読書への意欲や積極性について、個人の差が大きい 〈書くこと〉 ○まとまった量の文章を書くことへの苦手意識がある児童もいる。語彙力、表現力に個人差がある。 ○「はじめ・中・終わり」という構成で文章を書くことは概ねできているが、「中」の部分を目的に合わせて詳しく書いたり、読み手を意識して自分の考えを適切に表現したりすることが十分にできていない。 ○書いた文章を、適切に読み返す習慣と技能が十分に身に付いていないため、主語述語のねじれや常体と敬体の混同	〈読むこと〉 ○「読み解く力」の育成について計画的に指導を積み重ねる。特に「照応解析」（指示語の読み取り）、「イメージ同定」（図表や絵や写真等と文の関係から読み取る）「推論」（既習事項を根拠として、新しい知識を獲得する）については意図的・重点的に指導を積み重ねる。国語における学習を生かして他教科の授業でも意識的に指導する。 ○文学的文章の主題、説明的文章の要旨につながる構造や叙述の捉え方を具体的に指導し、学習を積み重ねる。 ○様々な読解の場面で、意味が曖昧だったり分からなかったりする言葉を辞書や ICT を活用して調べ、意味を正しく捉えられるようにするとともに、生活の中で適切に使えるようにする。 ○ポプラタイムと読書週間を活用し、読書に親しむ時間を確保する。読書の量や内容について、学校全体でのめあてを基に児童一人ひとりがめあてをもって読書に取り組めるようにする。「読書のあしあと」に、年間を通じて読了した本を記録させる。成増図書館と連携してブックトークを実施し、読書の楽しさに目を向けさせる。 〈書くこと〉 ○意見文や図書推薦文など文種に応じて、書く手順を明確にしたり、モデルを示したりして、指導を行うことで、書き表し方を身に付けさせるとともに、文章を書くことへの抵抗感を少なくしていく。 ○ポプラタイムの時間に視写の学習を週1回積み重ねることで、書き慣れることや文章表現・語彙の拡充に取り組む。 ○読書の取り組みや、辞書や ICT の活用によって、語彙の拡充に取り組む。 ○主述の呼応、誤字、脱字といった表記上の観点や目的に合った文章になっているか等、読

	などの、ごく基本的な間違いに気付くことができない。 ○作文用紙の使い方が定着していない。 〈話すこと・聞くこと〉 ○目的に応じて話題や内容を決めたり選んだりすることは概ねできている。話の構成を考えたり資料を適切に活用したりすることに課題がある。 ○話し手の目的や内容を捉え、聞き取ったことについて自分の考えと比較しながら、自分なりの意見や考えをまとめることが十分にできていない。 ○立場や意図を明確にしながら話し合うことに課題がある。 〈漢字〉 ○日常的な漢字練習にはしっかり取り組みができている。既習の漢字を日常的に使う習慣が十分に身に付いていない傾向があり、定着度は個人差が大きい。	み返す観点を明確に提示して、書いた文章を読み返し修正する活動を積み重ねる。 ○作文指導を意図的、継続的に言い、基本的な作文用紙の使い方を身に付けさせる。 〈話すこと・聞くこと〉 ○書くことの学習と関連づけて、話の構成や意図を伝えるための資料の活用の仕方等を具体的に指導し、学習を積み重ねる。 ○相手の話を聞き、自分の考えと比較する観点や方法について具体的に指導し活動を積み重ねる。 ○話し手と自分の考えを比較した上で、話し手に対する意見の構築の仕方について具体的に指導し、活動を積み重ねる。 ○立場や意図を明確にした話合いの仕方について具体的に指導し活動を積み重ねる。 〈漢字〉 ○読み替えの漢字の授業の際に既習事項を確認したり宿題を活用したりして繰り返し学習できるようにする。漢字単体だけでなく、熟語や短文での練習を積み重ね、使い方を身に付けられるようにする。 ○国語に限らず様々な場面で、既習の漢字を使って記述する指導をする。
社 会	○日常生活と政治のつながりについて、十分に理解できていない様子が見られる。 ○日本の歴史に対する、興味や関心が高い。 ○年表などの資料と出来事を関連させて、総合的に読み取ることが十分でない。 ○調べたことをまとめる学習に意欲的に取り組む姿が多く見られる。一方、事実と比較、関連、総合して考えていくことに、課題が見られる。	○児童が政治を身近なものとして捉えられるよう、公共施設や生活に関わる制度等の具体的事例を教材として活用し、日常生活と政治との関連に気付かせる指導を工夫する。 ○歴史への関心を生かし、児童が主体的に追究できる課題や学習活動を設定するとともに、地域の歴史と関連付けることで学びの深まりと広がりを図る。 ○年表や資料の見方や考え方について系統的な指導を行い、出来事の順序や結び付き、人物の働きと意識しながら資料を読み取る力を育成する。 ○調べた内容の整理や表現の手順を段階的に指導し、思考の枠組みとなる整理の型やまとめ方の例を提示しながら、思考力・判断力・表現力の向上を支援する。
算 数	〈数と計算〉	〈数と計算〉

○基本的な四則計算の方法は概ね理解できているが、計算方法の意味についての理解には課題がある。また、正確さと計算にかかる時間の個人差が大きい。小数の加減では筆算の位のそろえ方に、乗法と除法では小数点の移動にそれぞれ課題がある。 〈図形〉 ○面積、体積は公式を理解し活用することはできるが、複合図形の求積の方法を筋道立てて考えることに課題がある。 〈測定〉 ○1 目盛りあたりの量を正しく把握して数量を求めることが難しい様子が見られる。 〈変化と関係〉 ○割合の理解や、伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて知りたい数量の大きさを求めるための立式や言葉の記述に課題がある。また、変わり方に着目して数量を求める問題でも、関係を捉えて式や言葉で表すことに課題が見られる。 〈データの活用〉 ○複数の要素を組み合わせたグラフの読み取り、二次元表からのデータの読み取りに課題がある。 ○代表値の意味は理解しているが、活用するのは難しい。	○整数や小数・分数の四則計算は計算方法の意味を確認しながら、筆算の仕方、小数点の移動、通分や約分等基本的事項を押さえて、正しく解くことができるようにミライシード等を活用して練習を積み重ねる。また、既習の学びを積極的に活用できるように働きかける。 〈図形〉 ○面積、体積については、既習の平面図形と立体図形の意味や性質、公式の意味と使い方の指導を繰り返し行い身に付けさせる。様々な複合図形の求積問題については、既習事項の活用を促すとともに補助線の活用等具体的な指導を積み重ねる。 〈測定〉 ○具体物や図、数直線等の視覚的な手がかりを積極的に活用し、数量や図形の構造的な理解を支援することで、数量感の育成を図る。また、操作活動や対話的な学習を通して、数量関係に気づき、それを言語化・数式化する過程を丁寧に指導する。 〈変化と関係〉 ○割合については、実生活の具体的な場面と対応させながら実感とともに身に付けられるように指導する。比例の学習では、伴って変わる2つの数量の関係に着目できるように、数直線を用いて関係を捉える活動を意識的に設定し、比例の関係から立式をして答えを求められるようにする。 〈データの活用〉 ○社会科や理科、国語等での表やグラフの読み取り場面で、算数の既習事項を生かしたり復習したりする学習を意図的に積み重ねる。 ○学習した3つの代表値を使える場面を捉え、活用を促したり使い方を復習したりする。 〈その他〉 1. 自分で考え集団で検討していくような、問題解決型学習を多く取り入れる。 ・問題解決をしていく際には、既習事項を活用して、解決の見通しをもつことができるようノート作りを指導していく。自分の考えを図
---	---

		や表、式、数直線などを使って分かりやすく書けるようにしていく。 ・集団検討の場面では、自分の考えを表現したり、説明したりする活動を多く取り入れる。 2. 反復練習の時間の設定 ・授業中に、計算のきまりの確認をしたり面積の公式を使う図形問題を解いたりする時間を適宜設定する。 3. 家庭学習とポプラタイム(朝自習)の充実 ・東京ベーシックドリルの活用：診断シート結果から、個々の課題を把握し、個に合った学習の取り組みを通して学習の定着を図る。
理 科	○実験や観察の方法を考える力に課題がある。 ○基本的な実験・観察の技能が十分に身に付いていない状況がある。 ○既習事項などをもとにした仮説を立てたり、結果から考えられることを根拠をもって書いたりする力に個人差がある。 ○学習したことを、日常生活に生かしたり、身近な事象と結びつけて考えたりすることが難しい。	○問いに対して・予想をもたせ、それを確かめるためにどのような実験や観察をしたらよいか考える活動を積極的に設定する。 ○実験前に、道具の使い方や安全指導を確実に行う。危険度の高い活動では、必ず演示を行う。 ○何のために実験を行っているのか目的意識をもたせる。その上で、結果（事実）と結論（考え）を区別した文型を示し、考察の基本的な書き方を指導する。 また、既習事項をもとに仮説を立てたり、いくつかの結果をもとに結論を導き出したりする際の話し合いを丁寧に指導し、妥当な考えを導き出せるようにする。 ○身近な事象から問題づくりを行い、実験や考察などの体験的な活動を多く取り入れることで、実感を伴った理解を導く。そして、理解したことを日常生活にどのように生かすか考えさせる。
音 楽	○難しい課題でも、最後まで努力を惜しまず完成に向けて努力している。 ○恥ずかしさから、思い切り声を出したり音を出したりできない児童が見られる。 ○友達と意見を出し合い、認め合って、自分たちの音楽を創りあげる活動に意欲的に取り組めるようになってきた。	○その都度頑張った点を褒めたり、更に意欲的に表現を高められるよう声掛けをしたりするとともに、多様な楽曲や楽器に触れることができるようにする。 ○スモールステップで課題に取り組めるよう、個の技能に応じた課題を設定するなどし、意欲を引き出せるよう指導を工夫する。 ○今後も、題材・教材に応じて、様々な形態の活動を適宜取り入れ、協働して学びを深められるようにする。また、互いの演奏を

		聴き合う活動を意図的に設定する。
図 工	○主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組む児童が多い。しかし他者意識が低く、自分の活動を優先している様子も見られる。 ○造形遊びをする活動の経験が少ない。 ○形や色などを基に、自分のイメージをもち豊かに表現している。しかし、表したいことに合わせてより良く工夫しよう、時間いっぱい表現を楽しもうなどを探究するまでに至っていない。 ○既習の学習を生かしている姿も見られるが、材料用具のテーマ設定など自己選択や決定の経験が少ない。	○鑑賞を取り入れ、自分の活動を振り返ったり自他の表現の違いに気付いたりする経験を増やしていく。 ○造形遊びなどの自分たちで活動をつくる経験を通して、材料や環境、友達同士の関わり合いを増やしていく。 ○見通しをもたせ、長時間題材を計画する。何で何をどのように表していくか自己選択自己決定する場面で、できたことをそのつど価値付けし、表したいことに向けた探究心の場の設定を行う。 ○表したいことに合わせてどのような材料や用具が的確か、児童と対話を図り決めていく。
体 育	○体育全般に対して自主的、意欲的に取り組める児童が多い。 ○他者意識が低く、誰とでも協力して活動するという意識が低い。 ○学習を振り返り、自己の課題を客観的に判断し、学習に生かしていくという学習の仕方が十分に身に付いていない。	○苦手意識をもつ児童にも運動本来の楽しさや技能を獲得したときの達成感が味わえるように、児童に合っためあてや用具、場を選ぶように工夫し段階を踏んだ指導をする。児童同士の教え合いの授業を充実させる。 ○運動が苦手な児童も楽しめる運動の仕方やルールを工夫して、勝敗だけでなく、作戦を立てたり、協力したりする楽しさを味わせるとともに、チームワークの大切さや良いプレーに注目し、互いに認め合える態度を育てる。 ○タブレットを活用し、毎時間の振り返りを入力することで、単元を通して自分の成長や課題を把握できるようにする。 ○タブレットの動画撮影機能を活用し、手本となる動きや自分の動きを確認させることで技能の向上を図る。
家庭科	○制作の技能に関して、個人差が大きい。 ○生活に目を向けることができて、自分の考えを深めて、活動・実践していくことに結びつかない。	○教材教具を工夫し、児童にとって分かりやすい授業を目指していく。また、個に応じた指導を行い、技能を高めていく。 ○児童が家族の一員であり、生活者であると自覚できるよう、家族の中での自分の仕事を意識させ、毎日の生活を考えながら行動できるように学習活動や学習展開を工夫する。また、振り返る機会を設ける。
道 徳	○登場人物の状況や気持ちを自分事として捉え、考えを書いたり発言したりで	○登場人物の気持ちに沿って考え、道徳的価値に迫ることができる発問や異なる立場から

	きる児童が多い。 ○自分の生活を振り返り、道徳的価値に照らし合わせて、できた経験、できなかった経験を想起し、それについての考えを書いたり発言したりしている。	の発問、学習活動を工夫するとともに、考えを十分に伝え合うことができるように学習形態を工夫する。 ○毎時間の学習において、道徳的価値について考える活動の後、自分の経験を振り返ったり、友達の経験を聞いたりする学習活動を位置づけ、今後も積み重ねていく。
総合的な学習の時間	○自らの課題をもち、見通しをもって主体的に追求していくことに課題がある。 ○インターネットを用いて、課題に合った適切な情報を収集することはできるが、情報を理解し自分の考えを具体的に記述することに課題がある児童が多い。 ○身の回りの環境や情報から、課題を把握し、課題解決能力の向上を図ることが課題である。	○各教科と関連付けて、資料収集力や資料を読み取る力を高め、自分の考えを表現する機会を多く設ける。また、多様な考えを認め、自分の考えを書く際に丁寧な指導をする。 ○体験や調査などの活動を通して、地域教材や体験的な活動の工夫など導入を工夫するとともに、自分の疑問に対する予想を基に学習計画を立てるようにする。身の回りの課題を明確にさせ、その解決のために自分たちができることは何か、見通しをもたせる指導を繰り返し行う。 ○環境をテーマとした探求的な学習に1、2学期を通して取り組む。
外国語	○外国語活動自体には興味・関心があり、意欲的に取り組むことができるが、人前で英語を話すことには消極的な様子も見られる。 ○ゲーム的な活動には、積極的に参加できる。やり方やルールを理解するのに時間を要することもあるが、繰り返すことによって理解できる。 ○フレーズが長くなってくると、聞き取れないこともある。その場合、活動への意欲が低下する傾向が見られる。 ○書くことが苦手な児童がいる。	○授業の中で、英語に触れる機会を多く設けるようにする。指示についても、なるべく英語を多く使用するようにする。併せて、英語でコミュニケーションをとる活動を積極的に設定する。 ○絵カード等の教材を使用しながら英語を用いて、実際にやって見せるようにする。 ○授業の展開を大まかに示しておき、見通しをもって活動に取り組むようにする。 ○長いフレーズの場合はゆっくり読んだり、短く区切って読んだりするなどの工夫をする。 ○ALTが入る授業では、事前に内容を把握し、支援が必要と思われる活動や支援の方法等をあらかじめ想定しておく。 ○デジタル教科書を積極的に取り入れ、英語に親しめるようにする。 ○書く機会を増やし、慣れさせる。